
黒い悪魔

阿山利泰

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒い悪魔

【Nコード】

N6356A

【作者名】

阿山利泰

【あらすじ】

ある夏の出来事、ヤツの出現に焦る主人公！！この危機を得意のガンさばきで乗り切れるのか！？《オバカガンアクション》

(前書き)

グロイというか気持ち悪いと言うか。

読んで手気持ちのいいものではありませんが…それでもよければ読んでください。

それは、むせかえるほど暑い日本の夏だった。べっとりはいつくような温度、全てを砂に変えるような太陽光線。

8月半ば、異常気象並だ：いや異常気象なのかも知れん。蟬の泣き声が脳味噌を掻き回す波となって襲ってくる。

「あぢィ〜」

オレは、平々凡々な感想をいい余計に熱くなった温度を噛み締める。しかし突如現れたヤツにより今までの平凡な日常が終わりをつげた。ヤツは全身黒づくめで真夏なのに黒いコートを着てるみたいだった。見るだけで嫌悪感を感じる。

それでヤツについた通り名は『黒い悪魔』ヤツは神出鬼没でどこでも現れ素早く消えていく。

「貴様！黒い悪魔だな！」

「・・・」

「フツまあいいオレは、この手でお前を殺せる日を待ちに待っているんだからな。」

オレは腰に付けた銃を取り出す。オレの愛用は、グロックとディザートイーグルである。

グロックを構え、数発発砲　ヤツにかすったが余裕のつもりか微動だにしなかった。

『早撃ち三連発！！』全弾頭コースだったが見切られたようですでのところかわされた。

ヤツは急に物凄いスピードで距離を縮めててきた。

オレは危険を感じ物陰に隠れそこからやたらに発砲した。しかし当たるわけもなくすぐにグロックの弾は切れた。

弾を入れる時間はないグロックをしまいディザートイーグルを取り出す。

「くらえええええー」

銃を構え迫り来る黒い悪魔に向かい発砲しまくった。しかしヤツは背中のマントらしき物を広げ物凄いスピードで迫りつつ全ての弾をよけていく。

「なんて素早いんだ」

残りの弾が少なくなり焦り始める。

「くそっ」

しかし奇跡的にヤツの腕の付け根に弾が当たった。黒い悪魔の腕が吹っ飛びそこに倒れ込む。

マガジンを確認したところ残り二発。

「やったのか?」

ヤツに近づく。：

「言い残すことはあるか?」

「・・・・・・」

ジャコツ、パーン、ジャコ、パーン

一発は胸に、もう一発は頭にぶっ放す。

ヤツは白い体液を撒き散らし、生きていたことを名残惜しそうに手をカサカサ動かしながら死んでいく。

・・・・

オレはヤツの後始末を始めた。

ティッシュ五枚を手に取り

ヤツを覆うように包み、一度に握り手にプチッと嫌な感触が伝わってくる。

それを便所に流した。

そしてオレは平穏を取り戻した・・・忘れていた暑さが戻ってくる。

(後書き)

はい、ここでの一作目ですが自分のサイトに貼ってあるやつをココにも貼らせていただきました。

種明かしと言いか言葉遊びというか
グロイと黒いをかけてます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6356a/>

黒い悪魔

2010年10月10日05時06分発行